

## 他の施設で培われた経験や検証結果を生かし、 トイレに前方ボードなどを取り入れた施設。



3Fの特別養護老人ホームの共用トイレ。2枚引戸は木製で軽く、広い開口部を確保できる。



トイレには、前方ボードやはね上げ手すり、背もたれ、型手すりを設置。床を巻き上げ、壁の面材も平滑なものにして、清掃しやすくしている。

2017年に愛知県一宮市に開設された介護老人福祉施設えもりでは、母体である医療法人と連携しながら、各種介護サービスを幅広く展開。「利用者の満足度を高めるには、社員満足が欠かせない」という法人理念のもと、利用者も社員も、共に豊かな人生を送ることのできる事業の推進をめざしています。この福祉施設の開設においてもスタッフが積極的に参加した職場環境づくりが行われました。



閑静な環境にある4階建ての施設。特別養護老人ホームやデイサービス、ショートステイなどの機能がある。

### スイングタイプの前方ボードは 介助負担を減らし、利用者も安楽な姿勢に。

介護老人福祉施設えもりは、日常生活及び療養上の介護を行い、自立した暮らしを営めるようにサポートする施設。1Fにデイサービスと居宅介護支援事業所、2～4Fに特別養護老人ホームとショートステイが配置されています。

社会福祉法人 来光会は、一宮市を中心にさまざまな高齢者福祉施設を展開。当施設では、他施設で培われた経験や検証結果を生かし、さらにスタッフの意見も多く取り入れながら、水まわりにおいてもきめ細やかなレイアウトや設備の選定が行われています。介助負担の多いトイレでは、スイングタイプの前方ボードをすべての共用トイレに設置。これまでは2人での介助が必要だったのが1人で対応できる場合も増え、スタッフの負担軽減につながりました。「前方ボードがあると体圧が分散するので、高齢者にとっては安楽な姿勢になるんです(施設長・内藤勇一さん)」と語られるように、利用者の排泄も楽にするトイレが、日々の安心を生み出しています。



廊下の床に模様を施して、訪れた子どもたちが「けんけんば」をして楽しめるという遊び心も生かされている。

#### 介護老人福祉施設えもり

- 竣工年月/2017年1月
- 所在地/愛知県一宮市浅井町江森字楼光寺16-1
- 施主/社会福祉法人 来光会
- 設計/株式会社 空 建築事務所
- 延床面積/5,830.60㎡
- 定員/特別養護老人ホーム：100床  
ショートステイ：20床  
デイサービス：30名

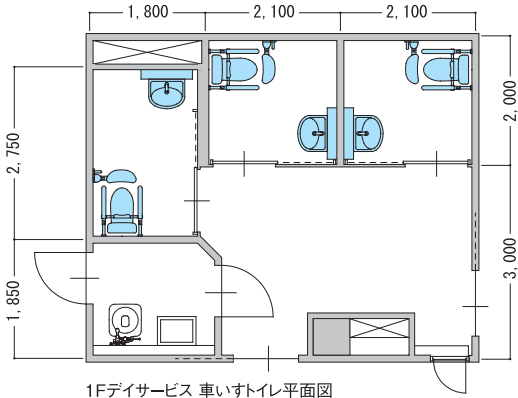


エントランス横に設けられた、車いすでも使いやすい手洗器。



スタッフ用トイレは、カフェ風の壁紙などをスタッフ自らが選び、働く場に愛着を持ちながらリフレッシュできる空間。





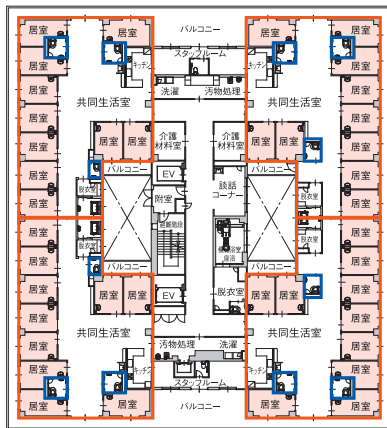
1Fデイサービス 車いすトイレ平面図  
左右勝手違いのトイレブースを3ヵ所設置している。



内装は白を基調とした明るい空間。トイレブースは濃い木目調で仕上げ、温かみのある落ち着いた雰囲気になっている。



1Fデイサービスのトイレに設けられている、車いすでの利用にも配慮した手洗器。



2~4F特別養護老人ホーム平面図

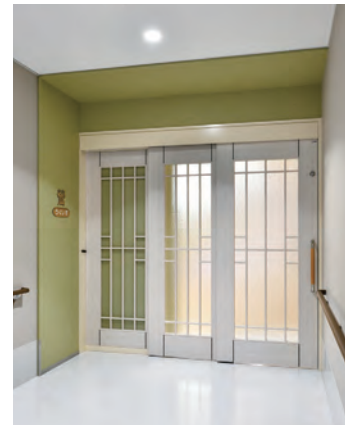


ユニットごとのテーマカラーが明示されたサイン。それぞれ鶯(うぐいす)、鶉(とぎ)、緋(あけ)、藍(あい)という日本の伝統色になっている。

**共用トイレ** 1フロアに4ユニット。1ユニット10人で構成され、トイレはユニットごとに3ヵ所ずつ設置されている。



美しいテーマカラーで色分けされた、ユニットの出入口。左は緋、右は鶯のユニット。



浴室の脱衣室にあるトイレの扉は、折戸で全開が可能であり、引き違いで前方からも後方からもアプローチできる。

**voice** 施設長さんからの声

新たなものを率先して取り入れ続けています。



施設長  
内藤勇一さん

介護スタッフの視点でいろいろな取り組みを行い、介助する際に中腰で腰に負担がかからないようなボタンやトレットペーパーの位置を決めました。また、こういう施設ではよく消毒液の臭いがしますが、普通の住宅ではそんなことはありません。ですから私たちは、掃除や洗濯には電解水を使用しています。新しいものを取り入れるために一歩踏み出すことを、今後も恐れずに歩みたいと思います。

**voice** 施設長補佐さんからの声

前方ボードは自分の力を発揮する支えになります。



施設長補佐  
尾鹿潔さん

横にスライドする前方ボードは、固定できる角度も絶妙で、それぞれの利用者がその人に合わせて使うことができます。両手でつかまることができ、力がうまく伝わり、姿勢が安定するのです。また、介助するスタッフもたれかかることも、男性が立って小便をする際の支えとしても使うことができます。縦の手すりだけでは、握っても体がクルッと回転して転倒してしまう可能性があり、不安定です。

**voice** 設計担当の方からの声

便器には後方からスムーズにアプローチします。



株式会社 空 建築事務所  
取締役 設計部長  
壺喜久さん

現場事務所にトイレや手洗器のモックアップを作り、一つひとつの動作を確認しながら検証しました。トイレは後方からアプローチする配置計画により、便座に移乗する時に車いすを回転させる必要がありません。施設全体を通して、スタッフの皆さんと楽しみながら、各所に遊び心を取り入れた設計にしました。スタッフ自らが壁紙を選んだトイレは、働く場への愛着や喜びにもつながると思います。